

# INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL  
59

2020

## 鼠年 より新しいことを生み出す1年に

DOCTOR'S VOICE 01 感染制御部は、患者さんと職員、学生を感染症のリスクから守る

DOCTOR'S VOICE 02 患者さんへの安全で正確な治療を提供する医療機器のプロ集団

DOCTOR'S VOICE 03 安全だけでなく、安心も届けられるドクターヘリの救急体制構築へ

FROM VIP DOCTOR 深い専門性と広い知識、バイタリティ溢れる若手医師の育成を期待



## 仕事始め式

— 令和2年初春 —



## 感染制御部は、患者さんと職員、学生を感染症のリスクから守る

感染制御部部長 田内久道

院内感染に関する指導・治療・教育を行う感染制御部は、小児科医である私などの医師をはじめ、院内感染専門の看護師や、抗微生物薬に詳しい薬剤師、高度なレベルで微生物や免疫を解析する検査技師、そして事務スタッフと多職種の集まる組織です。日本でも院内感染の認識が高まった2007年に院内感染対策室から部として組織化されました。部の活動により、病院内の耐性菌の割合は減っています。例えば、当院で検出される黄色ブドウ球菌のうち、感染制御部が始まったころには耐性菌の率は50%でしたが、今は30%まで抑えられています。

また、大学病院では学生が現場出入りします。学生が院内に感染症を持ち込むことも、院内の患者さんから感染症をもらうこともあります。そのための教育と対策を行うのも私たちの活動の一つです。更に、2017年からはJICAのプロジェクト（モンゴル初の大学病院の運営）に徳島大学と共同で関わっています。院内感染対策の概念がないモンゴルに、感染制御の導入・教育・指導を行っています。私達はすべての患者さん、職員、学生を感染症リスクから守るために活動を行っています。



### PROFILE

たうちひさみち◎1989年愛媛大学医学部卒業。1999年より当院にて勤務。専門は小児科・感染症。小児科専門医、日本血液学会専門医・指導医、日本感染症学会感染症専門医・指導医等取得。2011年より現職。趣味はネコ。

## 患者さんへの安全で正確な治療を提供する医療機器のプロ集団

ME機器センター 副センター長 山田文哉

ME機器センターは17年前に3名の臨床工学技士を中心に運営をスタートしました。安全で効率的な医療機器の利用促進と適正な運用を目的に中央診療部門として運営し、管理機器の増大や臨床的な業務の拡大に伴い16名にまで増員されました。日々安全な医療機器を医療スタッフや患者さんに提供するため、保守・点検といった医療機器の中央管理をはじめ、チーム医療の一員として人工心肺や血液浄化などの体外循環、補助人工心臓などの補助循環システム、人工呼吸器、透析治療、心臓ペースメーカー、内視鏡システムなど多岐にわたる医療機器の管理および操作など様々な診療科、診療部門と協力して業務を行っています。加えて24時間態勢で診療支援を実施するために、毎日3人のスタッフが昼夜・休日関係なく交代で呼出に応じています。

最近では、地域包括ケアシステムの推進に伴い在宅医療での患者本人やご家族、介助者の安全な医療機器の使用をサポートするため、外来診察などにも関わる機会が増えています。いずれは院内の様々なニーズを集約し産学連携で医療機器の開発も展開していきたいです。



### PROFILE

やまだぶんや◎1993年熊本総合医療福祉学院臨床工学科卒業、現在は愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻に在学中。2003年より当院にて勤務、2018年より主任臨床工学技士。一般社団法人愛媛県臨床工学技士会の副会長。趣味はスノーボード・ゴルフなど。

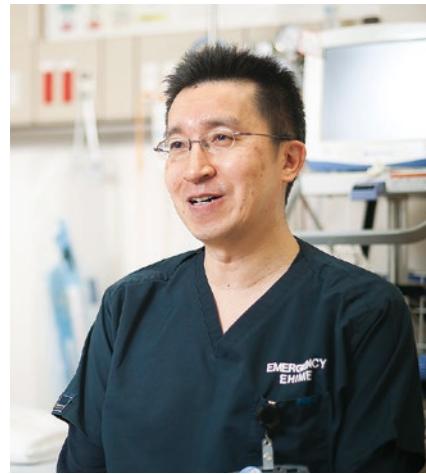
## 新任教授紹介

## 安全だけでなく、安心も届けられるドクターへリの救急体制構築へ

救急航空医療学講座 教授 竹葉 淳

ドクターへリが始まって3年経ち、前任者の佐藤先生から救急航空医療学講座を引き継ぎました。これまでの流れを引き継ぎつつ、院内外での協力体制づくりに強化・尽力していきます。救急体制は各地域の消防機関、地域の病院の先生方の協力なしでは成り立ちません。これまでも協力体制を培うために様々な取組を続けてきましたが、引き続き消防・病院の方たちと症例検討会を積極的に行っていきたいと考えています。実際にドクターへリで搬送した症例を用い、その時の関係者とともに救急対応時の判断や診療方法をお互いにフィードバックします。症例検討会を通じて顔が見える関係が、情報のやり取りや搬送時の協力体制にも生かされるはずです。3年間の運営で約1000件のデータが蓄積され、地域ごとの課題や症例の偏りも見えました。今後の愛媛県全体の救急医療政策の充実に役立てていただけるように、愛媛県立中央病院のスタッフと協働してデータ解析を行っていきます。

また、地域の救急では、整形外科医が最前線に立つ機会が多くあります。整形外科教室のご協力のもと、若手整形外科医が救急科をローテーションする仕組みを開始し、救急体制の一端を担う若手育成にも取り組んでいます。

**PROFILE**

たけじゅん◎1996年愛媛大学医学部卒業。2008年より当院にて勤務。整形外科外傷・救急医学が専門。日本整形外科学会専門医、日本救急医学会専門医、統括DMAT隊員、愛媛県災害医療コーディネーター取得。2019年8月より現職。旅行で行きたい場所はサハラ砂漠。

## FROM VIP DOCTOR

愛媛大学医学部附属病院に期待すること『VIP DOCTOR に聞く』

**深い専門性と広い知識、バイタリティ溢れる若手医師の育成を期待**

喜多医師会病院 院長 住元 巧

高度な先進医療が魅力の附属病院へは、当院から多くの患者さんをお願いしています。そうした附属病院には、総合的な診療のできる若い医師を増やし、医師不足地域への適切な派遣をしていただくことを期待しています。総合臨床研修センターの高田先生が掲げておられる「オール愛媛」の取組によって愛媛に残る若い医師が増えてきているという実感があり、大変喜ばしいことです。しかし、若い先生方の多くが高い専門性を持っている一方で、一般医療に苦手意識を持つ方も少なくありません。地域医療では幅広い医療知識や技術も必要とされますので、更なる学習・研修体制の充実を望みます。また、地方への適切な医師派遣は言うまでもなく喫緊の課題です。その中で、地域医療連携ネットワークシステム「HiMEネット」が開設されたことは非常に頼もしく感じています。医療人だけでなく、行政や地域、患者さんとも情報共有を行うことがよりよい地域医療を目指す一歩になると思います。

**PROFILE**

すみもとたくみ◎1980年愛媛大学医学部医学科卒業。愛媛県立中央病院内科、公立学校共済組合近畿中央病院の循環器科にて勤務、97年より喜多医師会病院に勤める。循環器科医長、副院長等を経て、2009年より現職。趣味はテニス、ゴルフ、ワイン、音楽鑑賞。

# 愛媛大学医学部附属病院 トピックス

お気軽にご相談ください

## リレー・フォー・ライフジャパン 2019えひめに参加



令和元年10月5日(土)・6日(日)、がんへの理解や支援を目的としたチャリティーイベント「第10回リレー・フォー・ライフジャパン2019えひめ」に、本院の約60名のスタッフ等が参加しました。松山市城山公園では、患者さんや故人に向けたメッセージが綴られたルミナリエバッグがコースに設置され、日没後はキャンドルが灯りました。患者さんやご家族等を含む参加者が交代しながら夜通し歩き続け、親睦が深まりました。

総務課企画広報チーム ☎089-960-5225

## 大規模災害訓練を実施



令和元年12月1日(日)、東南海地震を想定し、災害拠点病院としての実施体制及び地域との連携の確認・検証を目的に大規模災害訓練を実施しました。訓練は、平日の昼間に震度6強の地震及び火災が発生した想定で、避難訓練や災害対策本部の設置・運営訓練、治療の優先順位を決めるトリアージ訓練、原子力災害を想定した患者受入訓練も行いました。今後も災害訓練を定期的に実施し、災害拠点病院としての機能強化を図ります。

総務課総務チーム ☎089-960-5125

## 病院でプラネタリウムを上映



令和元年12月10日(火)、本院小児科病棟においてプラネタリウムを上映し、入院中の患者さんやその保護者らが参加しました。星を介して人をつなぐ活動を行う「一般社団法人 星つむぎの村」が主体となり、本院の小児総合医療センター、NICU及び小児科病棟デイルームで行い、参加した子どもたちは、自分の星座を知って喜んだり、映像で迫る大きな惑星を協力して吹き飛ばしたり、一体となって宇宙旅行を楽しみました。

医療サービス課 ☎089-960-5182

## クリスマスコンサートを開催



令和元年12月11日(水)、「あいほつと」主催で、歌手の荒川和子さんを招きジャズや歌謡曲を披露しました。歌の合間に、ご自身の手術経験やがんを患ったご家族との思い出等を語り、歌声と共に来場者を勇気づけました。19日(木)は愛媛県警主催で、交通事故防止の講話、その後警察音楽隊によるコンサートが開かれました。両日とも、患者さんやご家族、職員等100人以上が参加し、一体となつて楽しいひとときを過ごしました。

総務課企画広報チーム ☎089-960-5225

## 編集後記

鼠年にあたり鼠算のように、当院もより良いことを次々創生できる年になることを期待しています。本号では患者・医療スタッフを感染リスクから守る感染制御部、適確な医療機器を提供するME機器センター、救急航空医療学講座の竹葉淳新教授をご紹介いたします。また、密な連携病院の1つである、喜多医師会病院の住元巧院長から温かい言葉をいただいております。リレー・フォー・ライフジャパン2019への参加、小児科のプラネタリウム映像、クリスマスコンサート、大規模災害訓練、地域医療再生セミナーなど多くのイベント記事もぜひご覧願います。本年初頭から、武漢発の新型コロナウイルス肺炎が世界的流行になりつつあります。手洗い、咳エチケットを励行しつつ、十分な栄養・体力を維持しこの季節を皆様が無難に乗り切られることを望みます。

広報委員会委員長 高田清式

◎表紙：仕事始め式にて



# 愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川454 ☎089-964-5111(代)  
ホームページ <https://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>